PHILHARMONIKER WIEN NAGOYA

フィルハーモニカー・ウィーン・名古屋
第25回演奏会

A.DVOŘÁK: SYMPHONIE NR.6, D-DUR,OP.60
J.BRAHMS: SYMPHONIE NR.4, E-MOLL,OP.98

ドヴォルザーク
交響曲第6番 ニ長調 作品60

ブラームス
交響曲第4番 ホ短調 作品98

指揮 **武藤 英明**

2026 9.12（土）
開演 14:00
開場 13:30

東海市芸術劇場 大ホール
東海市大田町下浜田1016番地　名鉄太田川駅南口すぐ（名古屋駅から約15分）

全席自由　1,000 円　未就学のお子様のご入場はご遠慮ください

前売りチケット ■ 芸文プレイガイド TEL:052-972-0430　チケットぴあ https://pia.jp/ Pコード:328128

チケットぴあサイト▶

主催 ■ フィルハーモニカー・ウィーン・名古屋　公益財団法人 日本交響楽振興財団
後援 ■ 愛知県教育委員会　名古屋市　名古屋市教育委員会　中日新聞社
お問合せ ■ PWN広報 TEL 080-4096-1842 Mail gruess_gott_pwn@yahoo.co.jp

最新情報は楽団HPをご覧ください▶

KEIRIN
競輪の補助事業

この演奏会は、競輪の補助を受けて開催します。
https://jka-cycle.jp

フィルハーモニカー・ウィーン・名古屋
第25回演奏会

当団の演奏会も、今回で一区切りの第25回となります。最近の演奏会では、「ウィーン」を冠する当団としては、比較的異色の幅広いプログラムを取り上げてきましたが、今回は原点に立ち返り、ドイツ3大Bの一人であるブラームスと、ブラームスが才能を見出したドヴォルザークによる交響曲をお送りします。ドヴォルザークの生前には「第1番」として出版されていた出世作、初夏の明るい田園を思い起こさせるような生命力や幸福感に溢れる「第6番」。対してブラームス最後の交響曲、古典的な技法の中に、憂愁や諦念、無常観をも美しく昇華させた、晩秋を思わせる「第4番」。ボヘミアの光とウィーンの影、この対照的な2曲を、チェコでのキャリア豊富な名匠・武藤英明氏のタクトとウィーン式楽器の響きにより余すところなく描き出します。

指揮 武藤 英明
MUTO Hideaki

桐朋学園大学卒業。斎藤秀雄に指揮を学ぶ。1976年チェコのプラハに渡り、ズデネェク・コシュラーに師事する。1986年プラハ放送交響楽団とサントリーホール・オープニングシリーズで日本デビュー。1990年、同放送交響楽団と「プラハの春」国際音楽祭に出演。2004年名古屋フィルハーモニー交響楽団と再度「プラハの春」国際音楽祭に出演。今までに指揮している主なオーケストラは、プラハ交響楽団FOK、スロヴァキア・フィルハーモニー、プラハ放送交響楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団、フランクフルト放送交響楽団、ロシア・フィルハーモニー交響楽団、ネザーランド・フィルハーモニー交響楽団、チューリッヒ交響楽団、ロンドン・フィルハーモニー、国内では、札幌交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、読売日本交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団等々。CD録音にチェコ・フィルハーモニー管弦楽団とのモーツァルト：交響曲第40番、第41番「ジュピター」他、ターリッヒ室内オーケストラとのモーツァルト：交響曲第38番「プラハ」、ドヴォルザーク：チェコ組曲、ヴァイオリンのための「ロマンス」、弦楽セレナーデ、ヤナーチェク：弦楽のための組曲、ロンドン・フィルハーモニーとの「行進曲」―世界に冠たる日本のマーチ―等々、著書に「スメタナ弦楽四重奏団が語るクァルテットのすべて」(音楽之友社)がある。
長年に亘る日本とチェコとの音楽文化の交流への尽力に対し、令和7年度外務大臣表彰を受賞。

管弦楽
フィルハーモニカー・ウィーン・名古屋
Philharmoniker Wien Nagoya

フィルハーモニカー・ウィーン・名古屋(PWN)は、ウィーン音楽・ウィーン式管楽器をこよなく愛する東海地区のアマチュア奏者を中心に2011年に創設されたオーケストラです。管・打楽器は全員が、世界最高峰ともされるウィーン・フィルハーモニー管弦楽団(WPh)で使用されている独特のスタイルの楽器～ウィンナ・オーボエ、ウィンナ・ホルン、ウィーン・アカデミー式クラリネット、ウィンナ・ティンパニなど～を使用し、その美しい響きを追求しているという点で他に類を見ない、日本で唯一の楽団と言えるでしょう。また、楽器のみならず、WPhの団員やOBの演奏家を指揮者やソリストとして招聘し、演奏スタイルや精神面まで含め、その薫陶も受けることにより更なる高みを目指しており、10代から80代、関東や関西からも幅広くメンバーが集まっています。古典派から後期ロマン派の大編成の曲まで幅広く取り上げるほか、国立歌劇場管弦楽団を母体とするWPh同様、別名称で歌劇の公演にも取り組むなど、多彩な活動を行っていることも特徴です。

次回演奏会のお知らせ
第26回演奏会　2027年2月21日(日)　愛知県芸術劇場 コンサートホール
ベルリオーズ:劇的交響曲「ロメオとジュリエット」※名古屋初演　　指揮:武藤 英明　　合唱:名古屋市民コーラス

Wiener Musikverein ©Almschi